

きりん組 オリジナル劇「かえるのあそびっこ大会」 挿入歌「虹の向こうに」 合奏「夢をかなえて」



例年はお正月の伝承遊びも1月半ば頃になると、別の遊びへと関心に移るのですが、今年は熱中度が収まることなく、紐ごま・お手玉を繰り返し楽しみ挑戦していました。劇あそびをどのように進めるか考えていく中で、子どもたちが今挑戦している遊びをお話に取り入れ披露することで、より意欲的となり、達成感を味わい自信へと繋がって欲しいと考えました。劇の中で何の遊びに挑戦するかは一人一人が自分で決めました。そして日常の遊びのなかで積極的に挑戦していました。なかなか上手くできなくても、何度も挑戦しようとする姿を認め褒め、みんなに知らせていくことで友だちから良い刺激を受け合っていた様です。



グループで相談しながら自分たちのセリフや戦う敵など劇の内容を一緒に考えました。



「カエルが遊んでいる公園を描こう。」「家も描いたほうがいいな」「お花も描こう」「ここは遊ぶところ」など友達と会話を楽しみながら共同画を描きました。

自分のカエル君を作りました。画用紙を4等分に折り、それを細長く切って折り紙遊びで経験している『階段折り』をして手足に使いました。細かな作業ですが部屋の中が静まり返るほど集中していました。



【回して→跳ぶ】の一回跳びから挑戦です。腕を大きく回して縄が足元まで回って来ることを意識して挑戦していました。

カエルの遊び披露

「〇〇くんがんばれ～」「先生〇〇ちゃんコマ回ったで」と友だちの頑張りを応援する声が出ていました。

友だちの声援に力をもらいました。



お手玉は一つのお手玉を使って【投げて→取って→引っ越し】の掛け声に合わせて繰り返します。一つで引っ越しがリズムに乗ってきたら二つのお手玉を使って【投げて→引っ越し】のリズムに合わせました。



紐ゴマは紐を巻く時の引っ張り加減、コマを投げる向きや力加減が難しいです。最初は投げることに意識が行きコマが思わぬ方向に飛んで行っていました。紐を引くことに意識できるように声掛けし、回せるようになった友だちが見本となっていました。



ザリガニを見つけたカエル達は、うたを歌って眠らせることにしました。



カラスがやってきました。カエルたちは急いで逃げることにしました。あまりにも急いで逃げたので、からすたちは目が回り飛べなくなりました。

カエル達が冬ごもりの準備をしようと思っていると、蜘蛛が出てきました。カエル達は相談して糸でぐるぐる巻きにすることにしました。



カエル達は冬ごもりハウスの中でまだ眠らずに遊びました。そして歌が始まりました。

所長先生や異年齢児クラスの友だちに見てもらう事で、子どもたちのやる気となりました。また拍手をもらいほめてもらうことで自信につながっていました。一つ一つの場面の様子は写真販売をご覧ください。

